

「若手交流会」開催のお知らせ

政治経済学・経済史学会における若手研究者の学会活動を活性化するため、秋季学術大会にあわせて以下の要領で「若手交流会」を開催します。若手研究者の方々をはじめ、会員各位の幅広い参加を呼びかけます。

2016年8月1日
研究委員長 矢後和彦

- 【日時】 2016年10月21日(金) 17時30分～19時20分
【場所】 立教大学池袋キャンパス 14号館 D302教室
【テーマ】 座談会 母語以外での研究業績発信について
【ゲスト】 飯田 恭 (慶應義塾大学)
「ドイツ語で、英語で、日本語で一あるべき研究成果発信に向けた試行錯誤」
今泉 飛鳥 (埼玉大学)
「他言語での発信、多言語での議論：研究の国際化を考える」
【司会】 小島 庸平 (東京大学)

【懇親会】 立教大学池袋キャンパスカフェテリア「山小屋」[ウィリアムズホール2階]
※交流会・懇親会会場については裏面地図も参照

<趣旨>

近年、地球規模での国際競争の激化は、日本の高等教育機関である大学にも着実にその影響を及ぼしつつあります。世界大学学術ランキング (World University Rankings) が社会的に多くの関心を集め、2013年に文部科学省が策定した「国立大学改革プラン」では、「今後10年で世界ランキングトップ100に10校ランクイン」することが目標として定められました。若手研究者には、短期間で効率よく業績を挙げるだけでなく、その成果を国際的に発信することが強く要請されるようになってきました。ますます強化されつつある業績主義的傾向の中で、研究者としての主体性を確保しつつ安定した職を獲得することは、多くの若手研究者にとって切実な問題であり、この点については昨年度の本会においても学術雑誌における「査読」をテーマに取り上げて議論したところです。

今年はそうした問題意識を引き継ぎ、現地の研究者に伍してドイツ語の著書を公刊され、高い実証水準で研究を進められてきた飯田恭氏と、日本経済史がご専門でありながら国際学会や英文学術雑誌でも幅広く活躍されている今泉飛鳥氏をお招きし、母語以外の研究業績発信のあるべき姿や、その過程で直面する課題や葛藤について議論したいと思います。

なお、交流会終了後に懇親会を予定しております(19時30分開始予定)。そちらへのご参加もお待ちしております。

問い合わせ 高嶋 修一 stakashima@cc.aoyama.ac.jp

[立教大学池袋キャンパス]

